



トヨタ博物館 新館 「生活と車 溶け合って進化する二つの文化」を展示

トヨタ博物館の新館は、トヨタ自動車創立60周年を記念して建設されたもので、1999年（平成11年）4月にオープンいたしました。4階建ての建物の2階部分約1,400m<sup>2</sup>が展示場になっており、「わが国の近代化をめぐる人とクルマの文化史を一堂に展示する」というコンセプトのもと、最初に「前史ゾーン」で、明治から昭和初期までの自動車史を概観した後、第二次世界大戦直後から現代にいたるクルマ文化と生活文化の変遷を5ゾーン、11ブースに分けて展示しています。

展示車両は実車と模型合せて40台。ほとんどの車両は、車プロムナードと呼ぶ道路を模した中央の通路に展示され、そのまわりを取り巻くように約2,000点の生活資料や当時の映像などが配置されています。思い出深い生活資料とともに、楽しみながらクルマ文化の変遷を学んでいただければ幸いです。

## 目 次

- 「平成12年度部門別研修会」の報告について ..... 2
  - ・歴史民俗部門研修会
  - ・美術部門研修会
  - ・自然科学部門研修会
- 「あいち子ども体験ミュージアム事業」の報告について ..... 6
- 「いこまい!! 愛知のミュージアム展」の開催について ..... 8

# 「平成12年度部門別研修会」の報告

## ＜歴史民俗部門研修会報告＞

今回の歴史民族部門の研修会は、3月1日に博物館明治村を会場に「修復・保存・活用」という博物館の基本にかかわるテーマを、より実際的な視点から、三名の講師の方々にお話を聞いていただきました。

このテーマを取上げたのには理由があります。数年前に愛博協の機関誌にどなたかが「博物館(学芸員)が業者さんを育てる」と書いていらっしゃいました。梱包にしろ、輸送にしろ、修復にしろ学芸員ではなくほとんど業者さん任せで、実際に学芸員が自分たちで行うことが少なくなっています。そして学芸員が行うより業者さんにやっていただきたほうがより安心できることになっている現状に少々疑問を抱いたからです。多忙な雑務をこなさなければならない雑芸員の現状を鑑みるとお任せせざるを得ないかもしれません。また、相手は「餅屋」ですから技術的には太刀打ちできないのもっともです。しかし、実際にそれらの技術的知識があり業務の簡素化を図るために委託するのと、委託するのが当たり前となり、それらの知識をもたないことに何の疑問ももたず、それが次の世代に受け継がれてしまうということに少なからず危惧を抱き、今回の研修会がそれらの技術の再認識の場となれば…という気持ちを込め、企画いたしました。

\* \* \*

最初は当館建造物担当西尾雅敏部長の「建造物の保存・活用」。シアトル日系福音教会に会場を移し、近年盛んになってきている近代建築の保存・活用について長年の豊富な経験からお話をいただきました。3月といえどもどんよりとした雨交じりの屋外はさすがに寒く見学から戻ったときの皆さんの顔の青かったこと！

昼食の後、神奈川大学の田上繁教授の「歴史資



料の保存」について、とくに「古文書の補修(裏打)の技法」について実演を交えながらお話をいただきました。

田上教授は神奈川大日本常民研究所(以下、常民研)所員として常民研の借用していた歴史文書の調査・研究に携わり、虫損などで痛んでいる資料を後世に遺す必要に迫られて文書の補修(裏打)の技術を習得されました。今回は文書修復の意義についてお話をいただいた後、実際の文書裏打のデモンストレーションを行っていただきました。糊や刷毛、紙等材料の基本的な使い方の説明の後、実際の文書の裏打作業に入りました。田上教授には少々失礼ですが裏打の作業を見せていただいた私達にとってはまさに「職人の技」を目の当たりにしたといつても過言ではありませんでした。参加者の皆さんには田上教授の手元に熱心に見入り、また熱心にメモをとるなどその意気込みがひしひしと伝わってまいりました。

最後に愛知県美術館の長屋菜津子学芸員から「環境にやさしい資料保存について」お話を聞いていただきました。2005年の臭化メチル全廃に向けて収蔵庫の燻蒸を今後どのようなものにしたらよいだろうかと頭を悩ませている方も加盟館職員中には大勢いらっしゃることでしょう。今回のお話の中で「臭化メチルなどの薬剤に頼った燻蒸を行っているのは世界中でも日本だけ」という言葉に戸惑った方も少なくないと思います。臭化メチル以外の薬剤と代替駆除法についてのお話を伺ったのち、欧米を中心に行われている総合的害虫管理(Integrated Pest Management: IPM)についての説明を受けました。IPMと聞いて何か小難しいシステムを想像されるかもしれません、「いつ、どんな虫が、どこで、発生しているかの実態を把握」し、「害虫の同定を行い防除」を行うというものです。基本的には「人間の目」それも多くの人々の観察が害虫の防除の第一歩であることに驚きつつも、これならば費用も嵩まず、人体への影響も少なく明日からでも取り組める方法とは是非皆さんにもお勧めしたいと思います。

\* \* \*

犬山という立地条件の悪さと、3月に入ってからの開催という悪条件にもかかわらず30名を超える参加者を迎えることができ、大変嬉しく思いました。また担当者の準備不足も講師の方々の有益なお話で実りの多いものとしていただけではないでしょうか。この場をお借りして改めて講師の方々に謝意を表したいと思います。

(博物館明治村 中野 裕子)

#### <美術部門研修会報告>

美術部門の研修会は平成12年2月16日(金)、愛知県美術館を会場に、「ドキュメンテーションの今」というテーマで開催されました。参加者は22館25人と、愛知県美術館から講師を含め5人の計30人でした。

「ドキュメンテーション」は、「資料管理」と訳されることもあります。美術館・博物館がコレクションや展覧会、研究などで扱う作品や資料はもともと多岐・多様であり、分類・整理の難





まず午前の講演は、愛知県美術館でドキュメンテーションを担当している鯨井秀伸主任学芸員による「アート・ドキュメンテーションあれこれ」。ここでは午後の講演の予備知識も兼ねて、情報の分類法や情報を共有するための国際的な取り組みの経緯が説明され、具体例としてナショナルギャラリー(イギリス)の「マイクロギャラリー」と、愛知県美術館のコンピューターシステムが紹介されました。

しいところがありましたが、現代美術などではこれまで無かったジャンルや材質技法なども出てきています。さらに、作品に付随する史料や文献、来歴、作家の情報、画像、入出庫記録といった情報も膨大であり、合理的な整理方法が求められています。また、かつてはこうした情報は作品台帳やカードなどの上で、担当学芸員個人や各館の方針に沿った管理がなされてきたわけですが、近年コンピューターの利用やインターネットの普及が進む中で、情報の共有や交換、そしてさまざまな立場からの検索要求にも対応していく方法が検討され、現在その成果がまとめられようとしています。今回の美術部門研修会は、このようなアート・ドキュメンテーション学の現状について知ることを目的に、2人の講師による講演を聴きました。

「マイクロギャラリー」は、絵画作品と作家の情報を「歴史的背景と時代」「歴史地図」といった社会史や文化史の視点を加えて関係づけていく、という思想に基づいたもの。絵画作品は宗教絵画、肖像画、偶像・裸体、日常画、風景画、静物画などに分類され、さらに「日常画」は「楽器を弾く」「酒宴」「娯楽とゲーム」「教育」「仕事」「喫煙」などに細分化していくとのことでした。愛知県美術館のシステムについては実際に端末を操作しながら、作品や作家に関するデータベースと、美術館の業務(収集、展覧会、



貸出、保存処置など)が結びついていることが説明されました。参加者にはコンピューターが苦手な方もあったようですが、自館でシステムを構築中の方々などからは熱心な質問が發せられていました。

午後の講演は、東京からお招きした科学技術館企画開発部の水嶋英治次長による「国際博物館会議CIDOC委員会によるコレクション・ドキュメンテーションの標準化動向」。やや長く難しそうな題名ですが、

ICOM(国際博物館会議)の中にある専門グループCIDOC(博物館ドキュメンテーション国際委員会)によって、博物館データのスタンダードづくり(標準化)が進められ、昨2000年6月にISO(国際標準化機構)に提案されたとのこと。今後各館がドキュメンテーションを考えていく上で、拠り所となるものができたことは心強く感じられました。また、ある作品(資料)を同定するOBJECT IDのお話では、物のタイプや名称・年代などの記述において、用語を統一することと、逆にどの用語でも検索できること両方が重要であることが改めて興味深く思われました。

(愛知県美術館 深山 孝彰)



る意欲がうかがわれる。

さて、実際の研修内容はといえば、すでに用意されたホームページ「博物館協会パソコン教室」の中に各参加者のページを作成していくというもので、館の紹介にとどまらず、人物、特産、研究、趣味など各自が持ち寄った写真を使い、思い思いのテーマで取り組んだ。ホームページ作成ソフトや背景、タイトルなどは科学館で用意していただいたものの中から使ったが、それぞれ個性のあるページができた。初心者向けとはいながら、ハイパーリンクの設定や最終的にはサーバーへのファイル転送まで自身で体験できた。

最近、パソコンソフトの研修やインターネットの講習会は職場などでも開催されているが、「ホームページ」の研修機会は少ないので大変貴重な体験となった。しかも実践的な内容だったので、今後の館の活動に活用されることが期待できる。作成したホームページは4月末まで下記のアドレスで見ることができるということなので、ぜひアクセスしてみてください。

<http://www.scim.ncsm.city.nagoya.jp/page/index.htm>

(弥富町歴史民俗資料館 伊藤 隆彦)

### <自然科学部門研修会報告>

2月17日(土)、自然科学部門研修会が名古屋市科学館において行われた。IT時代を反映し、「初心者にもできるホームページ作り」をテーマに15人の参加者が取り組んだ。一人1台のパソコンを朝から夕方まで使わせていただいたので、とても充実した一日となった。昼休みを惜しんでパソコンに向かう参加者も多く、研修に対する

# ● 「あいち子ども体験ミュージアム事業報告」 ●

## <子どもと博物館研究会>

子どもと博物館研究会では、平成12年度に文部科学省『親しむ博物館づくり事業』の委嘱を受け、「あいち子ども体験ミュージアム事業」として平成12年7月31日から活動を続けてきた。

この事業は6つのワークショップを実施する(1)あいち子どもミュージアムキャラバン(7P一覧参照)と、(2)子ども向け事業実態調査、(3)報告書『あいち子ども体験ミュージアム事業報告書』の刊行という3つの柱で構成されている。

(1)は加盟館園から5館をピックアップして行う、館園種・分野を超えた県内公募の子どもの体験・見学キャラバンである。日数は16日間に及び、その結果は随時ファクスレター『CEMA』で、各加盟館園にお知らせした。(2)は加盟123館園を対象に、子ども向け事業に関する現在までの実績、将来の予定、各館園および各事業の政治・経済・思想的背景等の調査である。すでに各加盟館園にご迷惑をおかけし、102館からご



回答をいただいた。そして、この2つの事業を実施した経過やその中で得た反省点、将来的な展望を報告書としてまとめた。アンケートの詳細な分析を含めたこの報告書は、近々各館園にお送りする予定である。

今回の事業では17館にわたる21名の学芸員が携わり、また、実行委員にはなってはいないが協力を下さった学芸員など、多くの人たち

の手によって無事終わることができた。この3月13日に行われた文部科学省のシンポジウムにおいて展示と発表を行ったところ、委員や他館の学芸員から、複数の館園の学芸員が携わったという新しい事業展開に対し、評価を得た。

子どもと博物館研究会では、今後これらの成果を受け、歩調を緩めた形で新しい博物館と子どもの関わり方を考えていきたい。

(一宮市博物館 久保 穎子)



## 「あいち子どもミュージアムキャラバン」一覧

No.	名称	会場	日程	対象・募集人数	内容
1	どろんこやきもの探査隊	愛知県陶磁資料館	野焼き：2000.7/9、8/5、8/6 大窯：2000.9/9、10/14、10/22、11/5	小・中学生とその保護者30組	粘土で形を作り焼くことによって、「やきもの」が焼き物である由縁を学ぶとともに、野焼きと窯による焼成を体験し、釉薬を使用するにはどれくらいの温度が必要かなどを学ぶワークショップ
2	わたしのパリはコレ！	稲沢市荻須記念美術館	2000.11/11	親子20組	常設荻須高徳展を鑑賞した後、作品に描かれたパリの建物を粘土で表現してみる。構図や色彩をよく見ることで、荻須の制作意図へ近づこうとするワークショップ
3	漁師は海のおさかな博士	豊橋市細谷海岸	2000.8/10	小・中学生とその親50名	漁師とともに地曳網を曳いて、捕れた魚を観察した後、石器を使って調理して食べる。そして、食べた後の骨を肉眼や顕微鏡で観察し、遺跡から出土する魚の骨の意味を考える。分類学・魚類学・民俗学・考古学の枠を超えたワークショップ。
4	焼く・煮る・炊くは食の基本	安城市歴史博物館	2000.11/11、11/12、11/25、11/26	小(高学年)・中学生とその親20組	ドングリを分類しながら採集し、アク抜きをする。また、煮炊き具であった土器を製作して焼成し、縄文土器と弥生土器、土師器の焼成の違いについて学ぶ。さらに時代による食料資源の違いやそれに伴う調理具の変化などを体験しながら考えるワークショップ。
5	編む・織る！縄文・弥生の布	一宮市博物館	2000.10/21、2001.1/27、2001.1/28	小(高学年)・中学生とその親15組	綿が広く繊維の中心になる以前に、麻などとともに主な繊維の一つであったカラムンを採集し、オコキをして繊維を取り出し糸にして、弥生時代の方法で織ってみる。また、縄文時代の方法も体験し、弥生時代に平織りの技術が急速に普及した理由について考えてみるワークショップ。
6	キャラバン総集編	—	2001.2/24・25	キャラバン参加者から10組	十日町市博物館で実際に編布の実物資料に触れたり、新潟県立歴史博物館を見学する。宿泊先で、5つのキャラバンのスライド上映会・反省会をする。

……名古屋博覧会130年 博物館法制定50年………

## 「いこまい!!

# 愛知のミュージアム」展開催

今年は、博物館の搖籃となった名古屋博覧会が開催されて130年、博物館法が制定されて50年の節目の年に当たります。また、昭和39年にわずか8館園でスタートした愛知県博物館協会は、現在120を越える加盟館を擁する全国でも屈指の組織に成長しました。多彩な愛知県の博物館の活動と内容を広く紹介するとともに、博物館の連帶を深めさらなる飛躍を目指して、愛知県博物館協会では、名古屋市博物館・朝日新聞社と共に開催して、見出しの展覧会を開催する予定です。

各館の所蔵品を持ち寄る展示とその活動を紹介する関連事業に75の館園が、参加されます。展示品も考古資料、美術工芸品、生活・生産用品、産業資料、動植物、化石など多種多様にわたります。事業では、舞楽・三河万歳・説教源氏節の上演を始め、サイエンスショー・工作教室・機織りや綿繰りの実演と体験、博物館活動を紹介する講演会が館内で展開され、バス見学ツアーなども行われる予定です。この展覧会が、博物館との出会いの場となり、そのおもしろさ楽しさを知って、いろいろな博物館へ足を向けていただく機会となることを期待しています。

また、この展覧会が加盟館の交流を深め、協

力・連携を強めるとともに、お互いに良き刺激を与え合う場となれば幸いです。

なお、皆様にご協力をいただきました愛知県の博物館を紹介する図書も、展覧会と時を同じくして完成し、書店に並ぶ予定です。

会期／平成13年7月14日(土)～9月2日(日)

休館日 月曜日と第4火曜日

会場／名古屋市博物館 1階特別展示室・

部門展示室・エントランスホール

(名古屋市博物館 水谷栄太郎)



## 「愛知の博物館」 No.73

発行日 平成13年3月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒467-0806

名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

名古屋市博物館内

TEL (052) 853-2655

FAX (052) 853-3636